

動労千葉、国鉄破壊狙う「六三・三」を破る

「東日本六万人体制」への突破口「六三・三ダイ改」

「六三・三ダイ改」は、権力・当局にとって失敗に終わった国鉄分割・民営化攻撃の最大の狙い、すなわち、国鉄労働運動の解体、動労千葉・国鉄破壊への新たな策動である。

また、新たに二万人の首切り合理化（四人にひとりの首切りだ！）を強行し、東日本六万人体制を狙う攻撃の突破口である。

東日本会社社長・住田は、「六三・三」提案を前にして、「民間企業として本来に離陸するための体質づくり、環境整備のためには、六万人以下まで合理化する必要がある」と明言している。そして、「民営分割に反対……つまり本質的には会社の存在を認めていない人間たちをなぜ雇わなきゃならないのか、と大いに疑問はもっています。……ともかく、まず本業を懸命に合理化して軌道に乗せる。……そのなかで、いま反企業のな言動をしている社員たちも変ると思えますよ。もちろん支障をきたす向きにはきちんと対処します」と、組合潰しの心情をあげすけに語っている。

徹底した労働強化、安全性の無視

この「東日本六万人（以下）体制」の首切り合理化のために、「六三・三」では、史上最高の大増発、列車走行キロの増（全国で十二万八千八百キロ増、千八百八十八の増発）をおこないながら、東日本においては、二千六百名の要員を削減するという徹底した合理化が強行されようとしているのである。その内容は、スピードアップ、兼掌化、検修要員の削減、予備要員の削減等による殺人的労働強化、安全性の無視以外の何ものでもない。そして、無理矢理に「過員」を生み出し、強制出向、強制配転等の攻撃を全面化させようとしているのである。

検修部門全面小会社化への突破口

しかし、いかに殺人的労働強化と言えども、この間の十万人首切り攻撃をはじめとした未曾有の攻撃のなかで、それはすでに限界にきていること

も明らかである。現在JR当局が、「六三・三」を突破口として狙っていることは、より悪らつな攻撃である。

JR西日本は、昨年十二月、売店やそば屋など直営売店を全てJRから切りはなし、子会社化するとの提案をおこなっている。そして、現在直営店に強制配転されている仲間たちをはじめ二千八百名をそっくりりまとめて強制出向しようとしているのである。

JR当局は、これを出発点として、検修、電力、保線等を、全て小会社化し、ここに現場労働者の全てを強制出向させようという攻撃が策動されているのである。このような非採算部門を全て切り捨て、切りはなすというデタラメなやり方によって、「六万人体制」をつくろうというのである。現在、東日本管内では、各地の車両整備会社の就業規則の統一作業が進められている。これは、明らかに検修切り捨てへの事前作業である。

更に徹底した強権的労務支配の策動を許すな

また、こうした攻撃のなかで、さらに徹底した強権的労務支配、職場の恐怖支配の体制がつけられようとしている。JR東海で提案された「昇進の基準について」は、そのことを鮮明に示している。昇格にも昇職にも全てに「試験」が導入される。しかも、その「試験」の内容は、何ら客観的基準のない、面接、人事考課、小論文なのである。しかも、処分を受けた者は、一切の試験を受けられなくなるというのだ。

「六三・三」は、国鉄労働運動を解体するための新たな大攻撃の突破口である。絶対反対の立場を明確にして、闘いをつくりあげよう。



三里塚二期工事(木の根南端) 着工弾劾! 美と三七へ

国鉄「分割・民営化」反対 / 三里塚二期工事阻止!

東日本6万人体制 2万3千人=4人にひとりの首切り合理化

への突破口 「六三・三ダイ改」

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!